

船舶事故等調査報告書

平成24年11月22日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012門第71号
事故等種類	運航不能（機関損傷）
発生日時	平成24年2月11日 03時30分ごろ
発生場所	宮崎県延岡市島浦島南方沖 延岡市所在の島野浦島灯台から真方位180° 16.0海里付近 （概位 北緯32° 24.0′ 東経131° 49.3′）
事故等調査の経過	平成24年5月9日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 <small>ことひら</small> 事平丸、19トン
船舶番号、船舶所有者等	MZ2-10310（漁船登録番号）、有限会社事平丸
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士
死傷者等	なし
損傷	主機全シリンダのピストン及び2番シリンダのシリンダライナに焼損
事故等の経過	本船は、船長ほか11人が乗り組み、島浦島南方沖において、主機付逆転減速機を中立とし、主機動力取出軸駆動の油圧ポンプを運転して網揚げの準備中、平成24年2月11日03時30分ごろ主機が停止した。 船長は、主機の始動を試みたが始動できず、また、主機から白煙が生じていたので自力航行を断念した。 本船は、来援した僚船にえい航されて延岡市島野浦漁港に入港した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 1、視界 良好 海象：波高 約1.0m
その他の事項	主機は、冷却清水の水密保持の目的でシリンダライナの外周下部にリングが2本装着されていた。 主機は、本インシデント後に点検したところ、全シリンダのリングが硬化して水密機能が低下し、2番シリンダのリング装着部から漏水して冷却清水タンクが空となり、オイルパン内の潤滑油量が増加していた。 主機は、船舶所有者が平成14年3月に中古の本船を購入したときに装備されていたものであり、購入後から本インシデントまでシリンダライナを抜き出してリングを交換するなどの整備が行われたことはなかった。 主機の運転時間は、年間約2,000時間であった。 主機の取扱説明書には、シリンダライナの抜き出し整備を運転時間

	8,000～10,000時間又は2年ごとに行うよう記載されていた。
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり あり なし 本船は、島浦島南方沖で操業中、主機シリンダライナ下部のリング装着部から冷却清水が漏えいして冷却清水を失ったことから、ピストン及びシリンダライナが過熱膨張して焼損し、主機の運転ができなくなり、運航不能となったものと考えられる。 主機は、シリンダライナの抜き出し整備が長期間行われておらず、経年使用によりリングが硬化していた可能性があると考えられる。
<b>原因</b>	本インシデントは、夜間、本船が、島浦島南方沖で操業中、主機シリンダライナ下部のリング装着部から冷却清水が漏えいして冷却清水を失ったため、ピストン及びシリンダライナが過熱膨張して焼損し、主機の運転ができなくなったことにより発生したものと考えられる。
<b>参考</b>	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・主機シリンダライナは、取扱説明書に従い、定期的に抜き出し整備を行うこと。